

最適配置及び和音選択が和声の音楽美に及ぼす影響

西田 楓

本研究の目的は、最適配置の有無や和音選択が和声の音楽美に影響しているのか、またそれらは和声の音楽美を判断する要因となり得るのかどうか解明することである。和声学は、ソプラノ、アルト、テノール、バスの4つの声部に、どのような和音を設定し、どのような音を配置して連結を行えば美しいハーモニーが作れるのかを学ぶ音楽理論である。和声の課題では、配置や連結に関する様々な規則を守りながら、音楽美を表現することが求められる。解には様々なパターンが考えられるため、最良な解は一意には定まらず、美しい解もあれば、美しくない解も存在する。これまでの和声の音楽美の研究では、ソプラノの動きのみに着目した研究が行われてきた。本研究では、和音選択と最適配置という2つの観点に着目し、和声の音楽美との関連について解析する。

和声の課題は、4つの声部のうちバスのみが提示されている「バス課題」が基本となる。バス課題は、まずバスの音を見て適切な和音を設定し、次に設定した和音に基づいて上3声に音を配置・連結していくのが基本の解法である。和音設定では、あるバスの音に対し和音1個を設定するが、バスの音によっては2個以上の和音の中から1つを選択できる。本研究では、バスがivの音であるとき、IVの和音とIIの第1転回位置（以下、IIの1転）の和音のどちらかを選択できる場合について調査する。また、IIの1転の和音を設定する場合、「最適配置」という配置が使用可能となる。最適配置の有無や使用の回数が和声の音楽美と関連しているのか調査する。

和声学の標準的な教科書である『和声 理論と実習 I』の p.67 までに掲載されている和声課題の中から、課題内でバス音ivのときの和音選択が1回の課題3題と2回の課題4題について、それぞれ59例、147例の許容解を収集した。収集の条件として、禁則が守られていること、禁則以外の程度の弱い規則が守られていること、課題で最初の音の和音配置を統一することの3つを設定した。収集には、バス課題の全許容解を列挙するシステム BDS を使用した。次に、収集した許容解の音楽美評価を和声学の専門家2名で実施した。専門家には、美しい・美しくない、の2択で判断して貰い、美しくない場合にはその理由を記述させた。

分析の結果、和音選択や最適配置は、和声の音楽美評価の判断要因になり得るとはいえないことが判明した。専門家は、和音選択や最適配置の使用の有無・使用回数よりも、最適配置の前後の連結を重要視していることが明らかとなった。

(指導教員 真栄城哲也)